

## 平成 21 年度鳥取県バーモント州青少年交流事業に係る所感

学校名 鳥取敬愛高等学校

氏名 長谷川 まゆ

私が出発前に一番心配していたことは、言葉が通じるかどうかということです。何か言われた時すぐに対応できるのかという不安が常にありました。できる限りそういう心配事がなくなるように、現地に行くまでの間、ホストファミリーの方たちとたくさんメールをしました。一緒に活動するパートナーから始めてメールが来た時は感動しました。同時に、いよいよ自分はこれからバーモントに行くのだという実感がわいてきました。ホストファミリーのパパやママは、私の苦手なものや好きなものを聞いてくれたり、写真を送ってくれたりして、私が現地に行くまでに、できるだけ私が居心地よくできるようにしてくれました。そのおかげで、私が抱いていた不安もなくなり、早く家族の方たちと会いたいと思うようになりました。

事前研修の最初の頃は、すごく緊張して、一緒にいく日本の人たちとも仲良くなれるか不安でした。でも、研修を重ねるうちに、みんなで同じことについて考えるなかで自然と仲良くなり、次の研修で会えるのが楽しみになっていきました。プレゼンテーションで作った資料や、そのためにたくさんの本を読んで得た知識は、現地でパートナーと家のデザインを考えるとときにとても役立ちました。

現地では、みんなと一緒に山に登ったり食事をしたりして、とても有意義な時間を過ごせました。私は英語による説明をあまり理解できていなかったかもしれないけど、リサの通訳を一生懸命聞いて、みんなにおいていかれないように頑張りました。バーモントの大きな風景を見ながら、それができた歴史を聞いて感動しました。その土地の産業であるメープルシロップができるまでを学んだのがとてもおもしろかったです。

ホームステイ先では茶道を披露しました。茶道の先生が携帯用の小さなお茶の道具を持たせてくださったので、それを使ってお茶をたてました。ホストファミリーの友達も来て、とても興味をもってくれてうれしかったです。日本のお土産もたくさん持っていきましたが、自分なりに日本の文化を伝えられたことにとても手ごたえを感じました。現地ではリンゴをそのまま食べていて、私がウサギさんリンゴを作ったらとても喜んでくれました。私のパートナーは、私がお土産として持っていった日本のチョコやグミや雑誌をすごく喜んでくれました。家族とアイスクリーム工場、メープルシロップ工場、古着屋、チャーチストリートに行ったのも大変印象に残っています。

家ではママにクッキーの作り方を教わったり、映画を見たり、犬や猫、馬、鶏といった動物に触ったりしました。これらのことをしている時、自分の気持ちを伝えたくて、少しでもたくさんのことを話そうとしました。けれど、伝えたいことがあってもそれをうまく表現できないことがあり悔しかったです。私は、英語を勉強してもなかなか力が伸びなくて苦手意識を持っていましたが、今回の経験で、もっと英語に親しみたいと思うようになりました。日本に帰ってきて、自分の気持ちの変化を、授業やいろいろな場面で感じ、英語に対する興味が大きくなりました。ホストファミリーとの生活の中で、感謝の気持ちやその他どんな気持ちでも、思ったら相手に伝えることが大事だと学びました。だからもっと英語を学びたいと思いましたし、日本語以外で人とコミュニケーションを取ることができてとてもうれしかったです。生の英語に触れないと、きっとこういうふうには思えませんでしたし、英語がますます好きになりました。

自分がこの事業を完全に理解し何かを成し遂げた、とは言い切れませんが、海外の同世代の人はどのような考えを持っているのか、とか、自分の意思を伝えて一緒に計画を進める、というようなことはできたかなと思っています。何よりも自分の意思を伝えることが大事だと思います。どちらかが黙ってしまったらストップしてしまいます。こんなときにはこういう風に言わなくてなんて考える前に、必要があってもなくてもコミュニケーションを取っていた方がよかったです。せっかくの機会を大事にすることになったと思います。